



令和2年(2020年)第36週 2020年8月31日(月)~2020年9月6日(日)

熊本市 感染症発生動向調査 速報



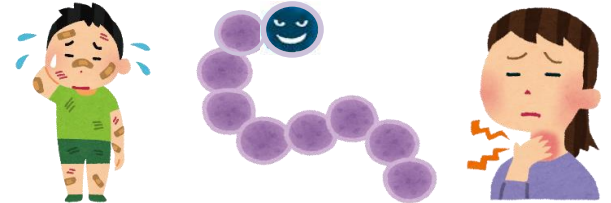
35週、36週と2週連続で劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出がありました。

●劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、レンサ球菌による感染症です。通常は、レンサ球菌に感染しても症状が無いことも多く、ほとんどは咽頭炎(週報報告にある、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎もその一つです)や皮膚の感染症にとどまります。しかし、まれに通常は細菌が存在しない組織(血液、筋肉、肺など)にレンサ球菌が侵入し、急激に症状が進行する重篤な疾患となることがあります。1999年に感染症法の全数把握疾患5類感染症に指定されてからは、毎年100~200人の報告があり、**致命率は約30%です。メディア等では「人喰いバクテリア」ともいわれています。**

・**症状**……初期症状としては、四肢の疼痛、腫脹、発熱、血圧低下などで、**病状の進行が非常に急激かつ劇的で、発病後数十時間以内**には、重症の呼吸困難や多臓器不全等を引き起こし、**ショック状態から死に至る**ことも多いです。

・**感染経路**…咽頭、粘膜、皮膚からレンサ球菌が侵入し、皮膚軟部組織感染症が半数以上、気道感染症が約2割を占めます。



◆治療法は？

集中管理のもと、抗菌剤による治療が行われます。筋膜炎の場合は、壊死を起こしている部分を切除し感染の拡大を防ぎます。重症化のリスクを下げるためには、**早期に治療を開始することが重要です。**

◆予防法は？

特別な予防法はありませんが、傷を清潔に保ち、創部の発赤や腫脹、痛み、発熱など、感染の兆候が見られた場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者報告数

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2) R2.9.6現在
全国	415	494	587	694	926	549
熊本県	7	7	7	9	7	5
熊本市	4	4	7	8	4	4

期 間		2020年 35週		2020年 36週	
		8/24~8/30		8/31~9/6 (最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	➡	0	0.00	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	4	0.25	2	0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	2	0.13	3	0.19
感染性胃腸炎	➡	14	0.88	15	0.94
水痘(みずぼうそう)	➡	4	0.25	6	0.38
手足口病	➡	6	0.38	5	0.31
伝染性紅斑(りんご病)	➡	0	0.00	0	0.00
突発性発しん	➡	13	0.81	9	0.56
ヘルパンギーナ	➡	61	3.81	25	1.56
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	2	0.13	0	0.00
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	11	2.20	7	1.40
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00